

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775004902		
法人名	社会福祉法人 美正福祉会		
事業所名	グループホーム サニーハウス		
所在地	東大阪市御厨南2-6-11		
自己評価作成日	平成27年10月16日	評価結果市町村受理日	平成28年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成27年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数という特徴を生かし、お一人お一人にきめ細かいケアを目指し、より早く利用者さまの変化に気づくよう努めています。色々なボランティアさんに来て頂き、外部との交流も深めており、認知症の進行が少しでも遅くなるようにレクリエーションを工夫し又外出の機会も出来るだけ設けています。職員の質を高めより良いケアが出来る様研修会や勉強会を行っています。利用者さまが少しでも笑顔で過ごせ、職員も笑顔で働ける施設でありたいと日々研鑽しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して11年余、利用者・職員共に開設以来の馴染みが続いている数名の存在は、2ユニット12名が定員と言う規模と併せて、認知症ケアの理想を見るようである。「自分の親を入居させたいホーム」を理想として、適宜な刺激で淋しい日々にならないようレクリエーションに工夫を凝らし、重度化する中での外出に心を配り、費用弁済で職員研修(内外ともに)に力を入れている。ケアに創意工夫を、日々に感謝、と仕事に熱意を持つ職員集団のケア力の向上と、施設長・管理者の自分たちの仕事に対する謙虚さが、このホームを終の棲家として日々を暮らす利用者とその家族の心強い糧となることを期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、実践できるよう職員は、日々努力している。	法人理念「利用者の意向尊重・尊厳の保持・創意工夫」を掲げているが、ホームに相応しく、また地域密着の意義を理解した理念を、自分たちの言葉で創りたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にも参加し、自治会長さんや民生委員の方との情報交換なども行っている。	地域行事への参加の他、公園でのバーベキューの容認や民生委員からの介護相談に応じるなど、地域との関係性は有効に保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方の相談に応じてディサービスの紹介など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他施設、家族、自治会の方の色々な意見を伺い自施設に取り入れたりしている。	開催期は妥当であるが、地域からの参加者が自治会長のみとなっており、地域密着の意義が活かされていないようだ。議事録にも改善の余地を見る。	開設11年の経緯から、地域と共に在るホームを目指して、地域からの参加者動員に力を注ぎ、認知症ケアへの関心・協力の向上に努めることを望む。議事録の工夫と家族への配布を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所担当の方とは、些細なことでも質問を行い指導を頂いている。	公的扶助受給者の関係もあり、その他介護に関する相談や情報収集も含めて、関係各署との関係は良好と推察する。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う場合は、必ず月1回家族の承諾を得て会議を行っている。玄関は安全策の為施錠している。	心身ともに拘束の弊害については正しく理解し、日常のケアに於いても、言葉や動作での影響に留意している。玄関施錠は地域環境からみて致し方ないと理解する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に積極的に参加し、参加した者は施設内にて他者に伝える機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修などに参加し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様に契約時明確に説明をし疑問点がないよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様面会時には、必ず利用者様の近況を報告し又家族様からの意見を伺うようにしている。	家族来訪時には管理者の対応を心掛け、生の声を聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し職員の意見を聞きケアに反映している。	勤務体制に配慮しての月1回職員会議の他、日常での対話から提案・意見を聞き取り、随時に又は上部決裁で運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と話す機会を設け、やりがいのある職場作りの環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外の研修に参加できるように努め職員のスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議などに参加しネットワーク作りにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前家族さんや担当ケアマネから詳しく情報提供を受け本氏の要望に応えるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に安心して預けて頂ける様要望を聞き家族様と一緒に利用者様を支えて頂ける様な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーの方と連携を取りながら支援を見極める様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の家で過ごして頂いているような環境作りに努め家族を支えるような気持ちで介護させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様が面会時、近況の報告を詳しくお話しコミュニケーションをとるようにし、家族様と良い関係を築ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人が面会に来て下さった時は、又来て頂けるような声掛けを行っている。地元の神社などに毎年お参りにいくなどしている。	入居歴10年ほど、近年の人と差はあるが、総体に過去の馴染みへは執着が薄い。来訪のボランティアや階下の通所の人たち、近隣との馴染みを大切にしていきたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症が進み利用者同士のコミュニケーションが困難になってきているが、職員が間に入り利用者同士の関わりをもつようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、家族様の相談や本人様の近況を聞くなど繋がりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人様の希望や意向を把握できるよう情報の共有を行っている。	午後のコーヒータイムや入浴時での会話・対話で、日常での観察(顔つき・顔色等)で、生活歴などからその人を理解し、やりたい・できない等の思いをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ在宅での暮らしに近くなるよう情報を収集しサービスを行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人に合った個別ケアを目指し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い情報を収集しケアに反映している。	利用者2:職員1での部屋担当制の下、ケアプラン→作成評価表→行動実施記録でのカンファレンスを3ヶ月毎に行い、プランの作成と見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに記録を行い職員間で情報を共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、家族様の意見を聞きながら柔軟なサービスが出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしをして頂ける様努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来て頂きかかりつけ医との関係を築いている。	協力医の月2回の往診と週1回の訪問歯科の体制があり、協力医療機関の受診は職員が同行、他は家族協力を基本とし、職員同行の場合は1回千円の負担としている。医療連携体制と看護師資格を持つ施設長の存在は心強いものがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は気づいたことを看護師に相談し適切な助言・医療を受けれる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、主治医と連絡を取りながら早期に退院できるよう情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について家族様に相談し理解して頂ける様取り組んでいる。	過去に3回の看取り経験を有し、現利用者3名については対応方針を文書化し共有している。必要時に話し合いをするとしていたが、今後、重度化・看取りの指針を策定し、利用者や家族に説明し納得を得たいとしている。	ホームでの看取り希望が多くなる社会的現状で、なるべく早急に方針を策定し、職員教育に取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	H27・6月に全員救命講習を受け実践に活かせるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、避難方法の訓練も行っている。	規定の訓練は行われているが、地震・水害等への対策は今後の課題とする。加えて備蓄に関しても対策が不十分である。	想定し得る諸災害について防災マニュアルの策定を急ぎ、複数回の避難訓練や備蓄品の整備についての検討を望む。地域防災会議への参加を勧める。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライドを傷つけないような声掛けをするよう気を付けている。	共感する、否定しないを基本に、利用者各々の来歴や性格を理解した接遇を心掛け、新入職者には特に注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に利用者様が意思決定出来る様支援している。困難な方は、家族様や職員が状況を判断し行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースに合わせ職員本位のケアにならないよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者様がほとんどでもある為、身だしなみには、注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が食事の準備は行っていないが、外食やお鍋の日などつくり食事を楽しんで貰う機会を作っている。	業者による配食を利用し、炊飯のみ各ユニットで行い、昼・夕各1食分を職員が検食している。年に2～3回の外食の他、職員手づくりのおやつでの楽しみなどの工夫もみられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は、特に気を付け摂取出来る様気をつけている。食事量も記録し体調管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、マンツーマンで行い本人の力に合わせ一部介、全介を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い失禁を減らすよう努力している。	布パンツだけの人、パットを併せての人、常時オムツの人と様々だが、トイレでの排泄を基本にした適切な自立支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に良い食品を食べて頂いたり水分を多く摂取したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週に3回は、入って頂ける様声掛けを行いお一人お一人ゆっくり入って頂ける様している。	少人数ならではの週3回のゆっくりした入浴が出来ており、1階のデイサービスに在る特殊浴の利用も可能で、個々人に合わせた入浴支援がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後など、傾眠がある場合はお昼寝をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認をおこなっており、用法や用量は職員各自理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	色々な行事や、レクレーションを企画し気分転換はかれるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を少しでも、多く出来る様地域の方の協力も得ながら支援している。	重度化によるADL低下があるなかで、状態に合わせ時間を工夫して近隣の散歩コースや公園に出かけている。ボランティアの協力を得たミニ遠足では、利用者・職員の笑顔が輝いている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お二人のみお金を所持され、買い物に出かけられている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方のみされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの時間皆さん食堂で過ごされ、生活感を感じながら過ごしてもらっている。	リビングは調度品の配置や飾りつけに1ユニット6人の日々の暮らしの穏やかさが見られ、その他の箇所も清掃が行き届き、総体に明るい雰囲気が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人になられたい時は、お部屋に戻られたりお話されるときは、食堂で過ごされ居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使われていた馴染みの家具や馴染みの物を持ってきてもらうようお願いしている。	開設以来の利用者、近時の利用者共に、馴染みの品々やレクリエーションでの作品、行事での写真など、夫々の個性で慎ましく整えられ、マイルームの心地よさを窺わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にわかりやすくお名前を書いたりトイレの場所をわかりやすいよう工夫している。		